

# 庄内町立幼稚園の今後のあり方検討委員会

## 第1回 会議録

令和7年11月19日

庄内町教育委員会

## 庄内町立幼稚園の今後のあり方検討委員会 第1回 会議録（概要）

- 1 会議日程 令和7年11月19日（水）  
 開 会 午後6時30分  
 閉 会 午後8時35分  
 2 会議場所 庄内町役場 B棟 会議室2  
 3 出席者（敬称略）  
 【会長】 佐藤 真哉（庄内町教育長）  
 【委員】 検討委員 13名出席（13名中）

区 分			氏 名	役 職 等
1号委員	保護者	幼稚園	大滝 祐佳里	余目第一幼稚園保護者会
		幼稚園	五十嵐 健太	余目第二幼稚園保護者会
		幼稚園	金子 まどか	余目第三幼稚園保護者会
		幼稚園	真柄 茉実	余目第四幼稚園保護者会
		保育園	今野 翔	余目保育園保護者会
		保育園	鈴木 俊洋	すくすく保育園保護者会
2号委員	小学校長代表		本堂 尚樹	余目第一小学校長
3号委員	幼稚園長代表		加藤 園子	余目第四幼稚園 園長
	幼稚園教諭代表		小林 美智子	余目第二幼稚園 教務主任
4号委員	子ども子育て支援事業従事者		海藤 誠	社会福祉法人和心 理事兼法人本部事務長
5号委員	識見		本田 淳	幼保連携型認定こども園 城南幼保園長
6号委員	公募		佐藤 未央	
			齋藤 明美	

【事務局】 8名全員出席

【オブザーバー】 齊藤教育委員及び子育て応援課職員3名出席

委嘱状交付	代表 大滝委員へ
1.開 会（進行）	（午後6時30分）
2.会長挨拶 （佐藤教育長）	お忙しい中お集まりいただき、検討委員を引き受けていただきありがとうございます。標題にもありますとおり、幼稚園の今後のあり方について検討していく会になります。第二幼稚園と第四幼稚園は昭和53年度に、第一幼稚園昭和54年度、第三幼稚園は昭和55年度に開園しました。庄内町の幼稚園は各小学校へ隣接し、幼小連携教育を実施してきました。入園については、4～5歳児の2年間の幼稚園教育とし、学区によって入園する園が決まっているという現状です。今回、検討する要因として、少子化、施設の老朽化、新小学校の開校などがあります。庄内町の子ども一人ひとりのことを考え、豊かな成長を支え、育んでいくため、庄内町の教育をより良いものとするべく、よろしくお願いしたいと思います。
3.自己紹介	委員⇒事務局⇒オブザーバーの順で実施
4.職務代理者の指名	本堂尚樹委員を指名
5.協議	
会長（教育長）	それでは、はじめに（1）町立幼稚園の現状について 事務局より説明をお願いします。なお、質疑応答は、すべての説明が終わったあとに行います。

池田教育総務係長	説明 (1) について、資料に基づき説明
会長 (教育長)	次に (2) 幼児教育に関するアンケート結果について 事務局より説明をお願いします。
池田教育総務係長	説明 (2) について、資料に基づき説明
会長 (教育長)	(3) 質疑応答へ移ります。本日の説明をお聞きして、感じたこと、ご質問等ある方は、挙手にてお願いします。
委員	職員の現状のところで、子どもたちが減っていく中で 4 園存続は厳しいと思う。その中で先生の数が減っていくようですが、新しい先生の採用はあるのですか。受けているけど採用されていないのか。募集があるのか。
清野教育課長	先程説明の中で、先生方の年齢分布の表がありましたが、若い先生がいない状況です。近年採用はありません。現在、園児数の定員数より、在園児数が下回っています。各学区に幼稚園があることは、保護者にとって利便性が高いことは十分承知しているところですが、園児の数に対して、施設数が多いということで、園を集約することにより、先生も集中させたいと考えています。
委員	小学校が統合するのであれば、幼稚園も一つにして複数クラスにした方がよいと思います。令和 20 年度で先生の数人は 17 人と推移するようですが、その先は、どう考えていますか。
清野教育課長	今回、幼稚園の今後のあり方検討委員会を開催するのは、今後、幼稚園の先生を採用していくかどうかということもあります。幼稚園をそのまま残すのか、別の形にするのかで、採用については大きく変わってきます。また、別の形については、現在白紙の状態ということでご理解いただきたいと思います。
委員	下の子が去年生まれて今 1 歳です。第四幼稚園の入園予定 3 人のうちの 1 人です。自分も第四幼稚園に通っていましたが、なくなるのも寂しい。でも子どものことを考えると、統合したほうが良いと考えます。
委員	生まれてから余目で育ってきて、当たり前のように幼稚園に通うものだと思っていて、働いてみると他では当たり前じゃない部分が見えてきました。親になってみると、別の施設に送迎が困難です。庄内町としてそもそも当時の体制をなぜこのようにしたのか。わかる範囲で教えてください。
清野教育課長	わかる範囲での回答になりますが、旧余目町時代からの話になります。昭和 50 年代に現在の幼稚園が開園していますが、各小学校に隣接する形で開園しました。幼小連携を重視した義務教育 11 年という考えがあり、教育委員会としても、その考えを前面に出してきました。しかし、今後小学校統合もあるため令和 13 年度までしか、体制を保てない状況もあり、今後幼稚園の体制も考えていく必要があると思います。
委員	小学校との連携が大切だと思います。私は、幼稚園の子どもがいますが、小学校に上がるときに何度も小学校へ見学に行ったり、小学校の先生が幼稚園に来たり、いろんな行事を見たり、連携が多くありました。小学校入学前から見学があったのですんなり入れた。小学校が統合するのならその近くに幼稚園があった方が、連携が図れていいと思います。
委員	保護者アンケートや町の流れから、幼稚園が統合して 1 園になるのは、みんな何となく頭の中にあると思います。学童保育所が新小学校に予定のようですが、同じ敷地内に幼稚園、小学校、学童を建てる計画はありますか。
清野教育課長	響ホール北側を宅地化して建物を建てることになるが、現在の計画ではそこに幼稚園は入っていません。
委員	資料の中で、「建設場所の検討」とありますが、幼稚園も小学校と学童一緒に

	同じ敷地に建設することも考えるのですか。また、幼稚園の統合についてですが、現在は、定員の半分くらいしかない現状です。4⇒3、3⇒2 などと段階的にするなら最短で R9 年度から可能であるとは思いますが、何か案などは考えているのですか。
清野教育課長	ここで最短で令和 9 年度と申し上げたのは、すでに今の 11 月の時点で令和 8 年度に入園される方の申し込みも全て終了しております。次年度のことを考えると、夏ぐらいには来年度の体制が決まっていなくて受け入れることもできないということなので、これであれば、令和 9 年度の入園には、また間に合うかなというところですね。体制の変化によって、2 園とか 3 園になるのであれば、施設も修繕する可能性があります。
委員	小学校が統合する理由として、校舎の老朽化があったと思いますが、幼稚園にはそのような問題はありますか。
清野教育課長	築年数の資料があったと思いますが、全体的に老朽化しています。耐震補強などして安全性は確保しているため、危険な施設で子どもたちが過ごしているわけではございませんが、今後何十年も使っていくのは難しいと思います。
委員	耐震改修工事をして、今後使用できませんか。
清野教育課長	鉄骨造なので、費用をかけて大規模な改修工事を行えば、使用できると思います。
委員	仮に幼稚園が統合となった場合、現在の園の活用は考えていますか。
清野教育課長	新築と改修との比較になると思います。費用の試算は未実施ですので、今後の検討材料になると思います。
委員	統合して新しく建設するとして、場所としては響ホール北側が良いと個人的には思います。認定こども園への移行より、簡単ではないでしょうが、年少組からの 3 年間の幼稚園が良いと思います。3 学年になれば、先生の数も増えますが統合することにより、現状の人数でも余裕があると思います。足りない場合は、採用ということもあると思います。
委員	統合するのであれば、最初から一つにした方が良くと思います。町外出身なので、保育園から小学校でした。分散や老朽化が進んでいる施設より、新しい施設を小学校の近くに建設したほうが良いと思います。0 歳児がいるので、今後そうならいいなという希望です。保育園だと長期休業がないのがとてもありがたい。幼稚園になったら預けられるが、給食がないというのが痛かった。長期休業中も給食があったら良いと思います。
委員	今後の進め方として、公立幼稚園を統合して新幼稚園、認定こども園へ移行の 2 パターンになるのかと推測されます。資料のアンケートの自由記載を全部読みました。幼稚園は、4～5 歳児が当たり前だったのが、0～5 歳児があるのかという驚きがあったということは、町外に出て初めて分かるころがあったのだと思う。自由記述より、幼小一貫の良さ、半面、保育園から幼稚園に行った際に用品の買い替えや給食など、4～5 歳児がいいのと、0～5 歳児の一環がいいのと半々と思う。認定こども園の考え方について、今回の検討委員会を踏まえて、教育委員会の考えをどう出していくのか、現時点での考えを伺いたい。
清野教育課長	認定こども園の年齢構成については、現在のところ白紙です。立川地域と余目地域が制度的に違うというのは、ご理解いただいていると思います。4 歳児以上と未満での棲み分けを変えるというのは、民間事業者の方との協議も必要だと思います。

委員	ここでいう認定こども園というのは、従来型の1号のみでなく1・2号一緒ということですか。
清野教育課長	立川地域では0～5歳児の認定こども園ですので、町内の子どもたちが同じような環境でと考えることもできます。
委員	今の日本の保育・教育体制は、両親共働きで保育ができない子を保育園で預かるシステムです。それは0～5歳児まで可能です。例えば、自宅保育ができる子であっても、3歳児から幼児教育を受けさせたければ、幼稚園に入れることができます。それを一緒にできる認定こども園制度ができましたし、現在主流になっています。庄内町は、異質なシステムになっています。0～3歳児は、保育園、4～5歳児は、保育を必要としていても幼稚園。保育を必要としている人が、ほとんどの中で、この制度に問題が出ている現状だと思います。3歳になって幼稚園に行きたいが、町内には入れない。共働きで5歳まで保育してほしいのに、一貫の施設がない。保育が不十分な提供しかできていない。例えば、土曜日が給食提供できていない。春・夏季休業、年末年始が学校休みだと給食の提供がないため、同様に幼稚園も給食がない。その課題をクリアするには、認定こども園化すべきと考えます。これからの少子化、今後どうするか、保育・教育環境を充実させ、少子化に対応していくためのシステム構築を庄内町は考えていかなければならない。庄内町として子育て支援を充実させるためには、どういう体制がいいのか。幼稚園ありきではないと思います。民営の保育園と公立の幼稚園を一緒に考えていかなければならない。保育しやすい環境をつくるにはどうするかが先で、それから幼稚園はどうするか、の順番ではないかと思います。
委員	酒田市に住んでいる保護者の方も、庄内町の教育環境、ランドセル贈呈など、実際に子育てをしながら庄内町に魅力を感じ、移住する方が周りに多くいます。今の庄内町は、幼稚園2年小学校6年中学校3年を義務教育として担っているわけですが、今の時代、保護者も共働きがほとんどであり、乳児保育からの大切さをこの職に従事していて痛感しています。教育だけでなく、保育環境も整えることが人口基盤に、ひいては町づくりにもつながっていきます。認定こども園化するのが良いと思います。同じ環境の中で、幼児期を過ごした方が良いとなればこども園か、保育園で0～5歳を過ごす。場所も可能であれば、統合される小学校中学校の立地や駐車場の広さも踏まえて、第一学区に教育エリアを集中させることができるのではないのでしょうか。一番大きな問題となるのは、今民営でやっているところと公営でやっているところ、立場も大きな課題と思いますので、そこも精査しながら進めていければ良い。
委員	今こども園の話をいろいろ聞いて、とても合理的と思った。でも自分は幼稚園という思いがある。余目では、公立幼稚園があるわけだが、酒田市の保育園に通って、庄内町の小学校に入る子もいる、選択の自由があると思うので、幼小連携の庄内町が良いとか、給食とかで保育園に通わせたいなら、酒田に通わせている人もいる。民間事業者が、0～5歳児を受け入れるとなれば、保護者としても選べると思う。選択肢を町でPRしてもらえば、町で決めたこと、学区によって入園先が決まっていることへの不満はなくなるのではないのでしょうか。
委員	残念ながらそういう状況にはありません。余目地域は、0歳児から3歳児まで、うちで保育を受け入れています。4歳5歳児は施設のキャパの問題ですとか、町が4歳5歳児は幼稚園ということで、3歳児までは保育園、4～5歳児は幼稚園と棲み分けをしています。また、狩川地区の「認定こども園からふ

	<p>る」のようにできるかという、そこは現状できないのですが、4歳児5歳児は、今の施設では受け入れられないので、まず幼稚園に行くということになっているので、そこをどうしていくか相談して検討していく必要があります。今は本当に良い機会だと思います。この機会を逃すと、幼稚園を統合してから、次の段階で考えるとすると、どうしても遅れてしまいます。立川地域では、こども園になったことで、4、5歳児にも土曜日の給食提供をしています。朝7時から夜7時まで、有資格者が保育をしています。認定こども園だとそれが必須なのですが、どうしても幼稚園だと対応できていない部分もありますので、それを皆さんで考えていく必要があると思います。</p>
委員	<p>例えば、公立幼稚園又は認定こども園になる場合、一つの幼稚園／こども園が、例えば、一小学区のある場所にできたとしたら、1号認定の子もいれば2号認定もいます。その場合、第四学区の保護者が第一学区まで通わせるときに、私の園では、5歳児なら園バス、片道50分以内などと決めています。この検討会では、そこまで検討するのですか。</p>
清野教育課長	<p>検討するかは現時点で未定です。現状は、公立幼稚園は登園・降園の幼稚園バスは出しており、預かり保育利用者については保護者送迎です。</p>
委員	<p>バスの利用状況はどうか。</p>
清野教育課長	<p>預かり保育利用者が大多数のため、バス利用者は少ないです。</p>
委員	<p>検討委員会を通して、町立幼稚園のこれまでの幼児教育で大事にしてきたことや、町立園の役割などもお伝えできればと思います。先日実施した保護者アンケート結果について、幼稚園教諭が集まり、話し合いの時間を設けました。幼稚園の評価が、高かったことが非常に嬉しくなりました。また、教育に対して非常に前向きで、小学校との連携が良いと認識している保護者が多いと感じました。一方、幼稚園入園による準備物の経済的な負担についても話し合いました。今後、準備物を見直して保護者の負担軽減につながるよう検討していく余地があると幼稚園教諭で確認しました。全体を通して、特に幼稚園経験がある保護者から、高く評価していただき、これまでやってきたことが、伝わっていたことを感じて、励みになりました。今まで以上に質の高い教育が出来るようにキャリアアップしていきたいです。</p>
委員	<p>統合は致し方ないかなとアンケート結果やみなさんのお話を聞いて感じました。他の委員と同様、幼稚園にこだわる一人です。義務教育11年という言葉も当時の町長の言葉、教育委員会としての総意と理解しています。子育て日本一、幼小中一貫した教育が素晴らしいものであってほしいと思います。幼児教育本来の質の向上、町立幼稚園、教育委員会の全面的なバックアップのもと、公務員だという意識で一人ひとりの子どもに向き合ってきた。支えてくれるバックアップがあったからこそ、いろんな研修で学び、それを子どもにバックしてきた。認定こども園、公設か民営かはここで議論するのではないのかもしれないが、以前は、保育園に5歳児まで入れましたが、幼稚園に入ってくる子もいた。選択肢が広がる庄内町になれば良いと思います。</p>
委員	<p>保護者アンケートの結果を見て大変うれしく思いました。地域の幼稚園として、公立として基軸園としてやってきました。園長研修なども庄内町では公立がリードしながら進めています。庄内町の子どもたちが幸せになるように今日の保護者の皆さんの意見も聞いて励みになりました。教育委員会とも相談し、一番いい形で進めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>小中学校統合に幼稚園が含まなかったのが、残念に思いました。</p>

清野教育課長	小中学校の再編整備の発端としては、小学校の老朽化がありました。小学校の校舎をどうするかというのが一番の大きな課題でした。幼稚園が外れてしまった、というのは委員がおっしゃったとおりと思うので、この機を重要と考え、こういった方法が適切かを検討していきたいと思います。
委員	幼小連携について否定しているわけではありません。ただ、幼稚園か保育園かではなく、保育が求められている。0歳児は、育休のため預けない子がほとんどですが、保育を必要としている保護者の割合は95%程度です。1号認定（保育を必要としない子）は数人しかいません。そこに重きを置くのではなく、幼稚園で大事にしてきたものを保育園と一緒にというのが認定こども園です。その制度をうまく活用して質のいい保育・教育を提供していけたらいいという考えです。
委員	小学校として幼稚園とさまざまな連携をしていて、かならず幼稚園の子たちが小学校にはいってくるので、安定して移行できる。小学校から見て、認定こども園が、幼稚園が、保育園がということはない。今後、町立幼稚園が一本化したとしても、結果的に子どもたちが幸せになればいい、もうちょっと広げてもいいと思う。子育て日本一の町を目指すのだとすれば、様々な風を受け入れて検討していくべきだと思います。小学校としては、ありがたいと思います。今後とも協力して話し合いを進めていきたいと思います。
委員	先日、余目第一小学校の公開研へ幼稚園教諭として参加しました。小学生の育ちや中学校の先生方のお話を聞くことができました。中学生の課題をお聞きして、幼児期にもっと出来たことがあったと思いました。他の市町村の方から、羨ましがられる庄内町の幼少中連携に誇りをもって働いています。
委員	幼稚園の取り組みは素晴らしいと思います。それを否定しているわけではありません。それを活かして、保育を提供できる仕組みを作れないかと思っています。実際に県内には公立幼稚園はほとんどありません。認定こども園化しています。幼稚園に拘りすぎると保護者のニーズに対応できないこともありますので、より良い保育を提供するために一緒に考えていきたいです。鶴岡市でも酒田市でも民営の認定こども園がいっぱいある。町立だからとかではない。どちらも一生懸命やっていけば良い。
委員	町内の小学校で勤務していたとき、小学校に付随して幼稚園があるというのは、当時素晴らしい環境だと思いました。「架け橋プログラム（5歳児～小1のプログラム）」を作る必要がない庄内町の教育は素晴らしかった。幼稚園の子どもたちが、一つの園になったときに地域の文化を取り入れることが薄くなってしまうのが、懸念材料ではあります。
委員	いろんな意見出ているが、保護者アンケート見たときに残念だと思ったのが、「幼稚園と比べて保育園は教育色が薄い」という意見でした。制度上、保育園は教育機関ではありませんが、教育の狙いをかけて保育しています。0歳児から教育はあります。幼児教育に携わっている先生方の熱い思いをぜひ4歳児からの教育にとどまらず0歳児からしっかり注いでいただければ、教育・保育について庄内町は最強になると思います。
会長（教育長）	ほかにございますか。無ければ、進行を事務局へお返しします。
6. その他	・第1回意見聴取について ・第2回検討委員会日程について
閉 会	（午後8時35分）